

普及活動情勢報告（平成29年2月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

環境制御技術を更に極めよう！ ～中央東地区環境制御技術講演会及び現地検討会から～



現地検討会（オオバのほ場から）

1月25日、農業改良普及課は、J A南国市経済事業本部と南国市のピーマン及びオオバのほ場で、南国市環境制御技術研究会と南国市3J Aとの共催による、中央東地区環境制御技術講演会及び現地検討会を開催し、生産者21名を含む54名が参加しました。

全農から招いた講師からは、光合成や蒸散など植物生理の基礎、生育調査に基づく草勢の強弱と成長バランスの診断方法、定植後の初期の灌水管理等について話がありました。生産者は、毎週生育を調査し、基準に向けて管理することが環境制御技術の醍醐味であると語っていました。

農業改良普及課では、生産者の環境制御技術をレベルアップするため、今後も講演会や研修会等を開催します。

J A南国市・(株) 南国スタイルの次世代型園芸ハウスが遂に始動！



栽培が始まった南国スタイルの次世代型園芸ハウス（パプリカ）

2月1日、J A南国市の次世代型園芸ハウス70aが上野田に完成し、ハウスの運営を担う同J A出資の(株) 南国スタイルは、6日からパプリカとピーマンの栽培を開始しました。

農業改良普及課では、同J Aと南国スタイルが構想を立ち上げた2年前から、品目選定、栽培方式、ハウス仕様、経営試算などについて、関係機関との協議を重ね、事業内容を検討してきました。

次世代型園芸ハウスでは、環境制御技術や電解水素水の効果を実証し、新規就農者を研修する役割も担います。

農業改良普及課は、今後も法人経営体のモデルとして南国スタイルの事業活動を積極的に支援していきます。

篤農家技術を学ぼう！！ ～J A土佐香美物部支所青壮年部がユズの勉強会を実施～



篤農家によるせん定実演

1月27日、J A土佐香美物部支所青壮年部は果樹試験場および香美市物部町でユズの整枝・せん定の勉強会を実施し、若手生産者6名が参加しました。

勉強会は、農業改良普及課とJ Aが支援し、今回は本年度3回目の開催でした。果樹試験場では、せん定の基本と平地で有望な開心自然形樹形を学び、物部町に戻り、篤農家のせん定を見学しました。

参加者からは活発な質問がなされ、特に篤農家のせん定実演では熱心に観察されていました。

農業改良普及課は、今後も勉強会の開催等を通じて若手生産者の育成を支援します。

コハマ農産物直販所のブランド化に向けて ～物部町のユズを使った加工品の試験販売～



コハマ農産物直販所の加工品をPR

1月29日、香美市の量販店で、「物部町のコハマ農産物直販所」の2名が、ユズを使った新商品2種類を試験販売しました。今年デザインしたロゴマーク入りの「のぼり」を立ててPRし、120名分の試食を準備して聞き取り調査を行いました。

農業改良普及課は加工品の商品化を支援しており、消費者ニーズを把握するため、聞き取り調査の内容を検討し、40名から聞き取りを行いました。2種類とも味の評価は高く、カトルカール（パウンドケーキ）の形は、長方形が一番人気でした。一方、価格面では「手づくりとはいえ高い」などの意見がありました。

農業改良普及課は、アドバイザーの協力を得てコストの削減や販売方法、パッケージの改良などを支援していきます。

J A長岡とJ A土佐香美のシントウ部会が合同で現地検討会を開催！



現地ほ場で情報交換

1月17日、J A長岡とJ A土佐香美のシントウ部会は、環境制御装置の導入農家で現地検討会を開催し、生産者16名が参加しました。

農業改良普及課は、今年の気象情報や生育状況、今後の活動予定等について説明しました。

参加者からは、「かん水管理はどうしているのか」、「肥料は何を使っているのか」、「炭酸ガスの施用方法は？」等の情報交換が行われました。

農業改良普及課では、シントウの生産量を維持・拡大するために両部会の活動を支援していきます。

香美市と香南市が合同で新規就農者を歓迎！



新規就農者への情報提供

2月3日にJ A土佐香美本所大ホールで、香美市、香南市合同の新規就農者歓迎会が開催され、H28年度の新規就農者8名が出席しました。

両市市長とJ A組合長から歓迎の挨拶があり、来賓、新規就農者が紹介されました。また、公庫、J Aから新規就農の制度資金、農済から施設共済の情報提供がありました。

その後、指導農業士が相談役になって意見交換を行い、新規就農者の思いや悩みについて指導農業士から様々なアドバイスがありました。「農業者の集まる会等へ積極的に参加して人との繋がりを広げ、その後にコミュニケーションをとることが大切だ」という内容に集約され、新規就農者からは一歩前に踏み出そうという意気込みが感じられました。

農業改良普及課は、新規就農者の経営が早期に安定するように支援していきます。

育苗管理検討会を開催



説明を聞く参加者

J A南国市稲作部の育苗管理検討会が、経済事業本部(2月2日)、南部営農センター(2月3日)で開催され、計21名の生産者が出席しました。

農業改良普及課からは、稚苗育苗、早進化苗育苗、移植後の管理について説明しました。

生産者から、「塩水選はした方がいいのか」、「浸種の期間は？」などの質問が多く出ました。さらに、実際の管理作業について情報を交換し合うなど、活発な会になりました。

農業改良普及課は、今後も生産者、関係機関と連携し、南国市の水稲生産を振興していきます。

～ほ場整備をきっかけとした新たな担い手の育成に向けて～ 第4回南国市集落営農塾



講義の様子



質疑応答の様子

1月26日に南国市で、今年度最終となる第4回目の集落営農塾が開催され、関係機関等を含めて29名が参加しました。

市は今年度の取組概要等について説明し、農業改良普及課は大規模法人の事例を参考に、農地を守る仕組み等を紹介しました。その後、四万十市の(農)入田村の代表者を招き、ほ場整備事業を導入した経緯や法人経営について講演を行いました。

講演後の質疑応答では意見が出やすいように、用紙に記入する形式にしたことで、「事業の反対者への説得方法」、「担い手への集積状況」、「法人設立の意義」など、日頃疑問に思っていることについて活発な話し合いができました。さらに、2地区から「集落営農の話を集会等で説明してほしい」と前向きな要望をいただきました。

今後、関係機関と協力して志向集落等での組織化に向けて支援していきます。